

今福線研究分科会 5 年目の活動

木村 賢一

1. はじめに

昨年度に今福線マップ初版を作成し、島根県技術士会 HP に掲載したことおよび、浜田市長に島根県技術士会今福線研究分科会の活動を報告したこと等をきっかけに、今年度は大きな飛躍を遂げた年となりました。

以下に、今年度の活動内容および、成果について詳述します。

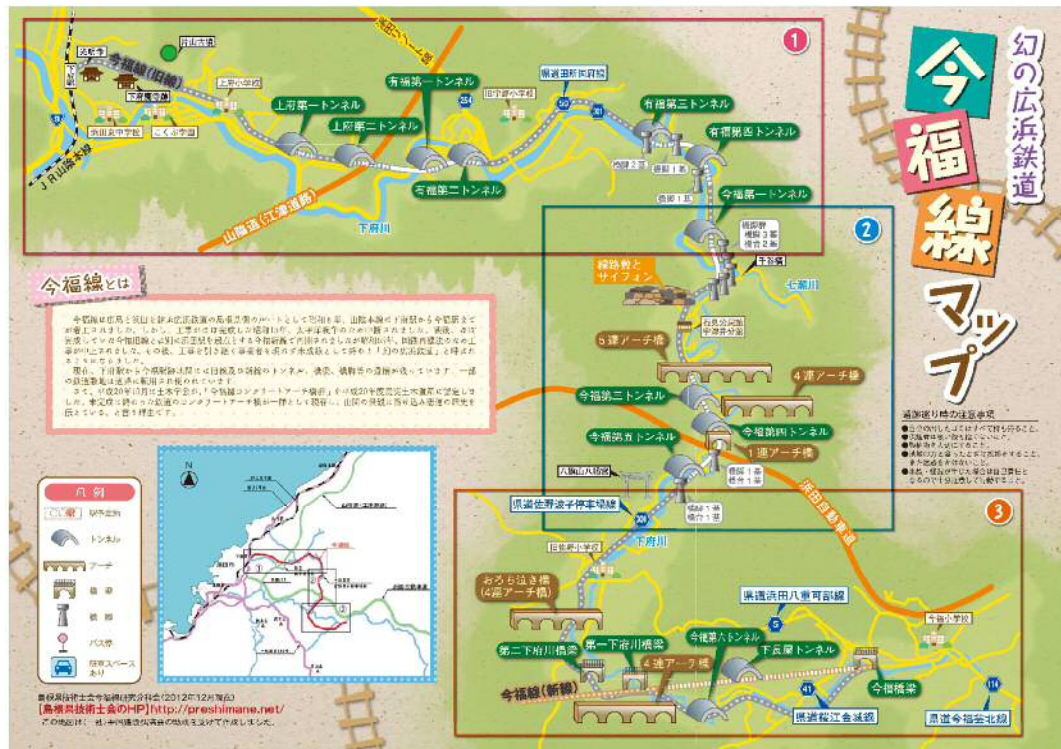


図.1 今福線マップ 4 枚目のうち 1 枚目

2. 今年度の活動および、成果

(1) 浜田市長訪問

平成 25 年 12 月の浜田市長所信表明において、浜田への誘客促進につながる「宝さがし」を行うとありました。「宝さがし」の中に今福線が含まれていた事を知り、2 月に浜田市長を訪問し、今福線マップと島根県技術士会研究報告書を届けました。

そこで、浜田市長から今福線を観光資源として利用したいため、場所の選定および、シンポジウム開催の提案を受けました。

これをきっかけに、浜田市、島根県、島根県立大学および、地元沿線の自治会等と連携して、今福線を観光資源として有効利用するため動き出すこととなりました。

(2) 新聞記事掲載の反響

今福線を観光資源化する取り組みが、読売新聞(2014年10月3日)と山陰中央新報(2014年10月2日)に掲載されました。

この中で、島根県技術士会今福線研究分科会の活動内容も紹介されました。

さらに、山陰中央新報(2014年11月18日)に掲載された島根県技術士会の準会員である盆子原氏によるコラムを読まれた、株式会社読売旅行松江支社から見学バスツアー企画について問い合わせがありました。



読売新聞(2014年10月3日)

(3) 今年度の活動内容・成果

今年度の主な活動内容および、成果を以下に整理します。

表.1 今年度の活動内容、成果

活動内容	成果
浜田市長訪問 島根県技術士会今福線研究分科会の活動を報告(2014/2/13)	→観光資源として、シンポジウムの開催の提案を受けた
シンポジウム実行委員会への参加 主催：広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会 共催：島根県技術士会 後援：浜田市、島根県、島根県立大学等 全体会議(2014/7/29) 第1回事前打ち合わせ(2014/9/30) 第2回事前打ち合わせ(2014/12/2) 第3回事前打ち合わせ(2014/12/24)	→シンポジウム開催予定(平成27年8月)
新聞掲載 山陰中央新報(2014/10/2)に活動内容 読売新聞(2014/10/3)に活動内容 山陰中央新報(2014/11/18)に盆子原氏のコラム	→株式会社読売旅行松江支社より見学バスツアー企画について問い合わせあり
浜田市との現地案内・調査 現地案内(2014/4/27) 安全確保や案内における予算要求を目的とする合同調査(2014/8/26)	
現地調査 市道改良により取り壊される下府橋梁(2014/10/11・14) 下府橋梁～下長屋トンネル区間(2014/11/15) 丸原地区(2014/11/16)	→形状、強度、鉄筋等 →今福第1トンネル

3. 今後の課題

(1) 環境整備

今福線を観光資源として利用することを目標としていますが、現地に観光客が訪問する環境が整っていません。

① 安全対策

旧線と新線の分岐点である4連アーチ橋をはじめ、今福線には見所が多数存在します。しかし、これら見所がある箇所は、手すりが無い、既存手すりの老朽化等、安全対策に問題があります。

このため、誘客促進にあたり、防護柵の補修、新設および、危険箇所への立ち入り禁止看板設置等の安全対策を講じる必要があります。



写真.1 旧線と新線の分岐点景観



写真.2 手すりの老朽化

② 受け入れ態勢の整備と地元の理解

旅行会社による見学バスツアー企画について問い合わせがありましたが、今福線沿線は駐車スペースが少ない状況です。誘客促進にあたり、受け入れ態勢の整備および、地元の協力と理解が必要と考えます。

(2) 今福線の認知度向上

新聞に掲載されたことおよび、島根県技術士会 HP に今福線マップを掲載したことで、認知度向上について成果があったと評価します。

旅行会社による見学バスツアー企画について問い合わせがあった実績から、認知度向上により新たな提案が寄せられることが予想されます。

来年度は、山陰中央新報で今福線に関する連載が始まります。島根県技術士会も執筆する予定です。

新聞連載の執筆および、今福線マップの更新(バージョンアップ)により、さらなる認知度向上に寄与したいと考えます。

(3) 土木技術の観点からの情報提供・提案

下府橋梁は市道改良により、残念ながら今年度取り壊されましたが、工事中に浜田市の協力により、遺構調査を行う機会を得ました。

当初ボックス構造と考えていましたが、橋梁形式であったことが判明しました。このように、新たな発見があることが考えられます。

島根県技術士会は、遺構の技術的な特徴、構造形式や現在の劣化・健全度等について、土木技術の観点から情報提供および、提案を行う立場にあると考えます。

また、下府橋梁のようにやむを得ず、取り壊される遺構については今回と同様に調査し、後世に歴史を残すよう努める必要があると考えます。



写真. 3 下府橋梁(取り壊し中)



写真. 4 下府橋梁(取り壊し前)

4. おわりに

今年度は、島根県技術士会 HP に今福線マップを掲載したことや、今福線を観光資源化する取り組みが新聞に掲載されたことにより、認知度向上に成果がありました。

また、広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会に参加し、今福線を観光資源としての有効利用する取り組みに向け、大きな一歩を踏み出した1年となりました。

来年度はシンポジウムが開催される予定です。関係機関や地元の方々と協力し、今福線の観光資源として有効利用および、遺構の保存に寄与するため、引き続き活動したいと考えます。

— 以上 —